愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物研究班　提出日：平成　28 年 4 月 8 日　報告者：藏前　仁

行事種別	研究会		行事番号	160000580
開催日	平　成　28 年 4 月 2 日　(土)			
時　間	開　始	15 時 30 分	終　了	18 時 00 分
場　所	名城病院　地下会議室　（所在地　名古屋市）			
テーマ	テーマ①：学会レビュー「第 27 回臨床微生物学会の発表を詳しく聞いてみたい!」 テーマ②：学会ワークショップ			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	名古屋第二赤十字病院　原　祐樹　技師 刈谷豊田総合病院　　蔵前　仁　技師			
講　師	藤田保健衛生大学　細田 卓也 技師 「糞便検体よりIMP-1型Metallo-β-lactamaseを産生するSalmonella属が検出された症例」 名古屋大学医学部附属病院　嶋岡 菜美　技師 「当院におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌検出時の積極的保菌調査の取り組み」 海南病院　魚住 佑樹　技師 「当院で臨床分離された広域β-ラクタム薬耐性腸内細菌科細菌と各種検出方法の検討」 名城病院　清水　聖一　技師 「当院における術前MRSA検査の10年間の 検出状況と薬剤感受性推移」 豊橋市民病院　山口　育男　　技師 「迷えるあなたの道標~欠如しがちな「躾」「教育」「評価」を考える～」			
内 容	H28 年 1 月に開催された第 27 回日本臨床微生物学会総会にて発表された一般演題 4 題およびワークショップの講演をレビューという形で実施した。 一般演題においては、発表時間を学会発表より長く確保することで、より詳細な発表やディスカッションが可能となり、参加者からはさまざまな質問があり、有意義な質疑応答がなされた。また、テーマ②においては学会ワークショップで講師を務めた技師より微生物検査技師の育成という観点から講演がなされ、参加者が人材育成の重要性について再度認識する機会をもてる内容であった。			
参加者	総数：73 名（会員　73 名、非会員　名、賛助会員　名、学生　名、　その他　名）			
共催、後援など				

2016.6.28

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物研究班　提出日：平成　28 年 7 月 4 日　報告者：藏前　仁

行事種別	研究会		行事番号	160005787
開催日	平　成　28 年 7 月 2 日　(土)			
時　間	開　始	15 時 30 分	終　了	18 時 00 分
場　所	名城病院　地下大会議室　（所在地　名古屋市）			
テーマ	テーマ：自信ありますか？真菌検査			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	JA 愛知厚生連　江南厚生病院　河内　誠　技師			
講　師	講演1　名古屋大学医学部附属病院　長田　ゆかり 技師　「酵母様真菌」 講演2　JA愛知厚生連　足助病院　河合　浩樹　技師　「糸状菌」			
内 容	講演 1 においては、酵母様真菌の分類、培養法、感受性試験の実施、判定方法など、多岐に渡って学んだ。講演 2 においては、各施設で難渋している糸状菌の培養法と顕微鏡所見に焦点を絞り、菌名同定のポイントを学んだ。また、座談会においては、班員施設へのアンケート結果をもとに、「各施設における真菌検査の現状と課題」について活発な質疑応答が行われた。参加者が真菌検査の現状と課題を共有できる内容であった。			
参加者	総数：102 名（会員 99 名、申請中 2 名、賛助会員 1 名）			
共催、後援など				

2016.6.28

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物研究班　提出日：平成　28 年 10 月 19 日　報告者：藏前　仁

行事種別	研究会		行事番号	160015238
開催日	平　成　28 年 10 月 1 日　(土)			
時　間	開　始	15 時 30 分	終　了	18 時 00 分
場　所	アーバンネット名古屋ビル 20F　リップルスクエア　　（所在地　名古屋市）			
テーマ	ケースカンファレンスで学ぶ蚊媒介感染症　ー海外渡航後の発熱に対応するー			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	刈谷豊田総合病院　蔵前　仁　技師			
講　師	名古屋第二赤十字病院　原　祐樹　技師 「症例検討」 愛知医科大学病院　宮﨑　成美　技師 「海外渡航後の発熱時の鑑別疾患」 岡崎市保健所　中根　邦彦　技師 「保健所との対応」 豊田厚生病院　永田　悠起　技師 「蚊媒介感染症とその予防」			
内 容	蚊媒介感染症について“海外渡航後の発熱患者という一症例を通して学ぶ”という形で実施した。 はじめに症例を提示し、海外渡航後の発熱時に考えられる疾患、鑑別のための臨床情報、必要な検査などについて講演をした。そして保健所に検査を依頼する際の流れ、診断後の感染症法に基づく届出、蚊媒介感染症の疫学およびその予防などについて講演をした。 また蚊媒介感染症の対応について、班員施設での運用状況を紹介した。 疾患の病態や検査について知るだけでなく、臨床検査技師がどのように関わっていくべきか、その役割を認識する機会をもてる内容であった。			
参加者	総数：46 名（会員 46 名）			
共催、後援など				

2016.6.28

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物研究班　提出日：平成　28 年 10 月 20 日　報告者：藏前　仁

行事種別	基礎講座		行事番号	160012932
開催日	平　成　28 年 10 月 16 日　(日)			
時　間	開　始	9 時 00 分	終　了	16 時 00 分
場　所	名古屋大学医学部 基礎研究棟　第 1 講義室・実習室　（所在地　名古屋市）			
テーマ	「用手検査の基礎～機械じゃない 検査を学ぶ いい機会～」			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	刈谷豊田総合病院　犬飼　ともみ　技師			
講　師	講義１　名古屋市立大学病院　畑　七奈子　技師 「グラム染色～手技上の注意点～」 講義２　愛知医科大学病院　坂梨　大輔　技師 「画線分離培養の方法と意義」 講義３　JA愛知厚生連　江南厚生病院　河内　誠　技師 「特徴付け試験の手技・使いどころ」 講義４　公立陶生病院　位田　陽史　技師 「イムノクロマト法の原理」 講義５　JA愛知厚生連 安城更生病院　近藤　好　技師 「呼吸器POCTの注意点」 講義６　小牧市民病院　西尾　美津留　技師 「糞便POCTの注意点」 講義７　刈谷豊田総合病院　藏前　仁　技師 「個人防護具の適正使用」 講義8　藤田保健衛生大学病院　細田　卓也 技師 「実習のまとめ・ねらい」			
内 容	本基礎講座は、前半に講義１～7 実施、後半に菌株を用いた実習を行い、その後講義 8 を行う日程で開催された。講義１～3 では畑技師よりグラム染色手技上の注意点、坂梨技師より画線分離培養の方法と意義、河内技師より特徴付け試験の手技・使いどころについて講演頂いた。これらの用手法は日常的に実施されている検査であるが、手技の習得に当たっては各施設伝統的に先輩技師等から受け継がれていることも多く、臨床微生物検査のなかでも標準化が困難な部類である。今回の講義においては、添付文書や学術書の記載を交えながら各用手法の目的、原理、意義、正しい手技について詳細な説明がなされた。講義 4～6 では拡大著しい微生物の POCT に関して、位田技師よりイムノク			

	ロマト法の原理、近藤技師より呼吸器 POCT の注意点、西尾技師より糞便 POCT の注意点について講演頂いた。POCT の適応症例から試薬添付文書の記載事項、そして用法を遵守しなかった故に発生した失敗等を詳しく説明いただいた。以上の講義により、日常実施している用手法検査手技の妥当性について考える有意義な時間がもたらされた。 講義 7 では藏前技師より個人防護具の適正使用について講演頂いた。院内感染対策の重要性が叫ばれる昨今、微生物検査に従事する検査技師は自身が感染しないよう、また、周囲に感染者を発生させないよう防護具の適正使用法を熟知する必要がある。本講義では着脱方法を実演する形式でわかりやすく説明頂き、全受講者が直後の実習でただちに実践するほど有益なものとなった。後半の実習は受講者 36 名に実務委員 19 名をアドバイザーとして配し、7 つの疑似症例の起因菌を培地の発育性状や各種用手法検査にて推定していくという内容で実施された。前半の講義で説明された各種用手法検査を受講者が実際に経験できる構成が組まれており、学んだ知識をただちに生かすことができる場となった。最後に細田技師より実習のまとめ・ねらいについて講演頂いた。実習直後に Take Home Message として出題症例の意図、カギとなる用手法検査について要点をまとめお話いただいた。基礎講座終了時に受講者に提出いただいたアンケートでは「今まで間違って行なっていたことを発見できてよかった」「添付文書をもう一度見直してみようと思う」「ルーチンですぐにいかせるポイントがとても多く勉強になった」との回答が寄せられており、有意義な基礎講座となったことがうかがえた。
参加者	総数：36 名（会員 36 名、申請中 0 名、賛助会員 0 名）
共催、後援など	

2016.6.28

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班　提出日：平成　28 年 12 月 21 日　報告者：藏前　仁

行事種別	講演会		行事番号	160013337
開催日	平　成　28 年 12 月 17 日 (土)			
時　間	開　始	15 時 30 分	終　了	18 時 00 分
場　所	名古屋市立大学　医学研究科　医学部研究棟 11 階講義室Ａ　（所在地　名古屋市）			
テーマ	臨床微生物検査の最新トピックス 2016 ～菌力アップトレーニング「菌トレ」も含めて～			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	刈谷豊田総合病院　藏前　仁			
講　師	東京医科大学微生物学講座　大楠　清文			
内 容	本講演会では「臨床微生物検査の最新トピックス 2016～菌力アップトレーニング「菌トレ」も含めて～」をテーマに、微生物検査において“臨床情報”、“染色像”、“集落・五感”を思考フレームとして起因菌同定に至るための講演を菌力アップトレーニング「菌トレ」と称して日常的なものから希少な症例まで 10 症例をフロアとＱ＆Ａ方式にて学んだ。はじめに“集落の外観・色・におい”をキーとする 5 症例を、次に“集落の溶血性・感触”をキーとする症例を 2 症例、最後に“グラム染色像・臨床情報”をキーとする症例を 3 症例提示しフロア全体で考え、発言、聴講した。 また、最新トピックスとして今年話題となった結核、梅毒、ジカ熱、麻しん、E 型肝炎、マイコプラズマ、細菌性食中毒感染について事例を基に説明がなされ、さらに近年、報道等で世間を騒がせているカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の確認検査方法の CLSI の最新情報を画像付きのフローチャートで解説がなされた。 講師の大楠 清文教授の講演は各種学会・研修会等で大変好評であり、今回は諸事情により学会･研修会等に参加できていない県下の技師へ有益な情報を提供することを目的に本講演会を企画・開催し、年末の多忙な時期にも関わらず 90 名を超える参加があり大変好評であった。			
参加者	総数：91 名（会員 90 名、非会員　名、賛助会員　1 名、学生　名、　その他　名）			
共催、後援など				

2016.6.28